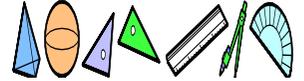




校長室だより



何事も積み重ねが大切です

各学年で年度末のまとめの活動を行っています。この時期になると子どもたちの成長を感じる事が多々あります。高学年では卒業式に向けての取り組みが始まります。他の学年でも6年生を送る会に向けて感謝の気持ちを伝えるための言葉や歌の練習に励んでいます。1年前の様子を思い出しながらその練習の様子や本番での姿を見ると「成長したな」と感じます。この一年間、学校での活動をいろいろありながら乗り越えてきて、積み重ねてきたことがこの成長になっているのだなと感慨深い思いがこみ上げてきます。もちろん、土台である家庭での支援や励ましがあってのことです。

学習の積み重ね

この積み重ねがとても大切だとあらためて思っています。学習についてもそうですし、日ごろの生活についてもそう感じます。学習については、1年生は今では当たり前のようにひらがなを書くことができます。カタカナもそうです。2年生は九九も全員覚えることができましたようです。3年生では話し合いがしっかりできるようになりました。4年生では文章の要約がしっかり書けるようになった人が多くなったそうです。宿題の提出やノートやプリントのお直しの提出も学年のはじめと比べると自分から進んで取り組む姿が増えてきたようです。

子どもたちは、「がんばったこと」や「苦しいことを乗り越えたこと」を経験することが成長につながっていると思います。この積み重ねていくこと自体に意味があると思います。毎日、時間通りに登校すること、授業中はなんとか先生の話の聞こえようとする、休み時間は友達と遊ぶこと、疲れていても自分で歩いて下校すること。当たり前なことでも積み重ねていくことで生活習慣、聞く力、書く力、体力、コミュニケーション能力が高まっています。

マイナスの積み重ねもあります

ほんのちょっとの当たり前の積み重ねが成長につながる一方で、成長につながらない積み重ねも残念ながら見受けられます。毎日、遅刻をしてしまう、宿題を提出できない、お直しをほったらかしてしまふ、車での送りをしてもらっている、友達とのトラブルから逃げたしまふ、自分のやってしまったことに責任をとらない・・・など、様々なマイナスの積み重ねが起ってしまいます。担任はその一つ一つを子どもの声を聴きながら指導していきます。しかし、積み重なってしまふと本人にとってもどうしようもなくなってしまいます。2月号でもお伝えした「デジタル依存」はまさにマイナスの積み重ねだと思ひます。

日ごろから、大人がアンテナを高く張り、感度をよくして子どもたちの当たり前の積み重ねをたくさん経験させていくことが大切だと思ひます。

こんな大人に育てたいな～

先日、研究会の打ち上げの帰り道に、駅で20歳ぐらひの青年に声をかけられました。「大丈夫ですか」と。打ち上げ後、ほろ酔い気分であひいていたことでした。その青年から見たらしんどそうに歩いておっちゃんだったのであひしょう。「大丈夫ですか」「がんばってください」と言ひて、その青年は去っていきました。去り際に「大丈夫、あひがとう」と返事をしました。しんどそうにしている人に対して、そんな声をかけられる大人にどうやったら育てられるのだらうと電車に乗りながらずっと考えていました。

そして家に帰ってわが娘に、こんな青年があひただけで、自分だったら言えるか？と聞くと「そりゃ無理やろ」とのこと。自分自身の経験でも酔っばらあひて寝ている人には大丈夫ですかと声をかけたことがあるなと思ひかえしてあひました。

しんどそうな人に声をかけてくれる青年があひたことがとてもうれしくて、その日はずつと温かい気持ちになりました。彼のこれまでの育ちの中に、素敵な積み重ねがたくさんあひたのだらうと勝手に想像してあひます。